

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-61975
(P2001-61975A)

(43) 公開日 平成13年3月13日 (2001.3.13)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マ-コード* (参考)
A 6 1 N 2/08		A 6 1 N 1/42	H 3 B 1 1 4
A 4 4 C 23/00		A 4 4 C 23/00	4 C 1 0 1
A 6 1 H 39/04		A 6 1 H 39/04	M 4 C 1 0 6
			Y
		A 6 1 N 1/42	F
審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 7 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号 特願平11-236152

(22) 出願日 平成11年8月23日 (1999.8.23)

(71) 出願人 594184470

株式会社イーストベリー

福岡県北九州市小倉北区末広1丁目1-21

(72) 発明者 東 一輝

福岡県北九州市小倉北区末広1丁目1-21

株式会社イーストベリー内

(74) 代理人 100095603

弁理士 榎本 一郎

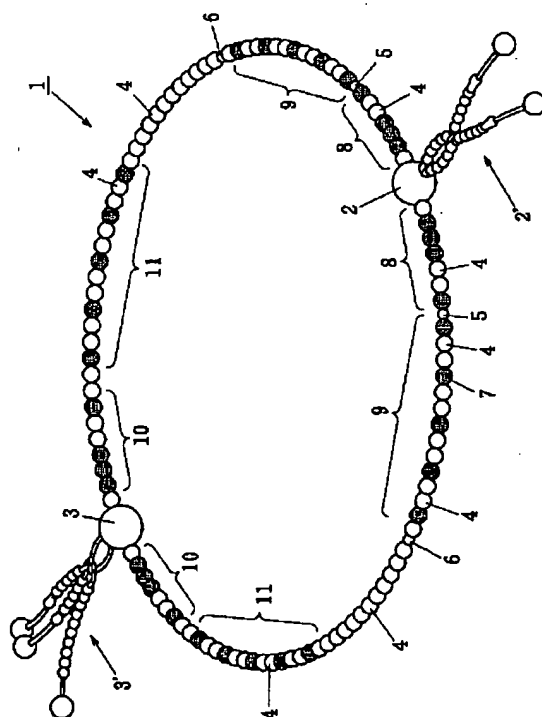
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 数 珠

(57) 【要約】

【課題】 特に掌と指間のツボの刺激効果と血行改善効果に優れる数珠を提供することを目的とする。

【解決手段】 リングの対向する位置に配設された第1母珠2と第2母珠3との2つを線対称中心として配設された54珠ずつの主珠4と、第1母珠2から数えて7珠目の主珠4の次に配設された1対の第1四天珠5と、第1母珠5から数えて21珠目の主珠4の次に配設された1対の第2四天珠6と、を線条体でリング状に連結した数珠であって、第1母珠2と第1四天珠5との間の所定数の主珠4を磁石珠7で置換した第1磁石珠群8と、第1四天珠5と第2四天珠6との間の所定数の主珠4を磁石珠7で置換した第2磁石珠群9と、第1磁石珠群8と対向して第2母珠3側の所定数の主珠4を磁石珠7で置換した第3磁石珠群10と、第2磁石珠群9と対向して第2母珠3側の所定数の主珠4を磁石珠7で置換した第4磁石珠群11と、を備えた構成を有している。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 リングの対向する位置に配設された第1母珠と第2母珠と、前記第1母珠と第2母珠の2つを線対称中心として配設された54珠づつの主珠と、前記第1母珠から数えて7珠目の前記主珠の次に配設された1対の第1四天珠と、前記第1母珠から数えて21珠目の前記主珠の次に配設された1対の第2四天珠と、を線条体でリング状に連結した数珠であって、

前記第1母珠と第1四天珠との間の所定数の前記主珠を磁石珠で置換して配設された第1磁石珠群と、前記第1四天珠と前記第2四天珠との間の所定数の前記主珠を前記磁石珠で置換して配設された第2磁石珠群と、前記第1磁石珠群と対向して前記第2母珠側の所定数の前記主珠を前記磁石珠で置換して配設された第3磁石珠群と、前記第2磁石珠群と対向して前記第2母珠側の所定数の前記主珠を前記磁石珠で置換して配設された第4磁石珠群と、を備えたことを特徴とする数珠。

【請求項2】 前記第1磁石珠群が、前記第1母珠と前記第1四天珠の間との7珠の前記主珠の内3珠以上を前記磁石珠で置換してなることを特徴とする請求項1に記載の数珠。

【請求項3】 前記第2磁石珠群が、前記第1四天珠と前記第2四天珠との間の14珠の前記主珠の内3珠～7珠が前記磁石珠で置換され、かつ、前記第2磁石珠群の前記磁石珠同士の間1珠以上の前記主珠を残していることを特徴とする請求項1又は2に記載の数珠。

【請求項4】 前記磁石珠が、KS鋼、MK鋼、アルニコ系合金、Cu-Ni-Fe合金、Fe-Cr-Co合金等の合金磁石、フェライト磁石、希土類コバルト磁石、MnAl磁石等の化合物磁石、これらの焼結セラミック体若しくはこれらの粉末を合成樹脂中に分散させたプラスチック磁石等の内いずれか1以上からなることを特徴とする請求項1乃至3の内いずれか1項に記載の数珠。

【請求項5】 前記磁石珠の表面が、金、銀、ニッケル、コバルト、クロム、パラジウム等の金属メッキ層、ホウロウ層、塗装層のいずれか1以上を備え、及び／又は抗菌層を備えていることを特徴とする請求項1乃至4の内いずれか1項に記載の数珠。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、数珠に関する。さらに詳しくは読経中や日常生活の合間にこの数珠を両掌の間で揉むことにより、優れた血行改善、健康増進効果を得ることのできる数珠に関する。

【0002】

【従来の技術】従来から、数珠として、多数の数珠珠に糸や紐を挿通して一環とした環状体の所定部に房部を固定したものが一般的に用いられている。また、近年では、健康増進にも関心が深まってきたことから磁性を有

する数珠珠を備えた数珠が用いられている。例えば、1)特開昭49-32491号公報(以下、イ号公報という)には、中心に孔を打ち抜いた円盤形多極着磁体を内蔵したプラスチック被覆体を、各々鎖をもって複数個環状に連結した数珠が開示されている。

2)特開昭52-106974号公報(以下、ロ号公報という)、実開昭61-105012号公報(以下、ハ号公報という)には、房を1つの母珠に取り付けた一連数珠(簡易数珠)の主珠の一部又は全部を磁石珠で置換した数珠が開示されている。

3)実開平5-161号公報(以下、ニ号公報という)には、ロ号公報、ハ号公報と同様の一連数珠の主珠の全部を磁石珠で形成し、全ての主珠の表面にざらつきのある木目模様を形成した数珠が開示されている。

4)登録実用新案第3021764号公報(以下、ホ号公報という)には、1対の磁石珠と、磁力を有しない珠と、にステンレス製の弾性Cリング材を貫通し、Cリングの両端にはプラスチックの止珠を止着した数珠が開示されている。

5)登録実用新案第3029384号公報(以下、ヘ号公報という)には、母珠を分割可能な2つの半球状の磁石で形成し、房部を取り外しできる数珠が開示されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来の数珠は以下のような課題を有していた。

a)イ号公報に記載の数珠は、円盤状の磁石をプラスチックで被覆し、略平板状に形成しているため、掌で揉むと表面の抵抗が大きく使用しづらいという問題点を有していた。

b)ロ号公報乃至ニ号公報に記載の数珠は、いずれも房が1つの母珠に配設された一連数珠であり、通常は主に合わせた両手の外周に掛けて使用するため、掌への磁力線の効果は弱く、十分な血行改善効果が得られ難いという問題点を有していた。

c)ホ号公報に記載の数珠は、ステンレス製の弾性Cリング材で珠を連結しているため、掌で揉む動作には適さないという問題点を有していた。また、磁石珠を一对しか有していないため、十分な磁力効果を得ることができ難いという問題点を有していた。

d)いずれの数珠も、磁石の配設位置が掌のツボの位置を考慮していないため、ツボに加わる磁力に過不足が生じやすく、十分な効力が得られがたいという問題点を有していた。

【0004】本発明は上記従来の課題を解決するもので、適切な位置に磁石を配設することにより、特に掌と指間のツボの刺激効果と血行改善効果に優れ、人指し指、中指、薬指の血行も改善することのできる数珠を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記従来の課題を解決するために本発明における数珠は、以下の構成を有している。本発明の請求項1に記載の数珠は、リングの対向する位置に配設された第1母珠と第2母珠と、前記第1母珠と第2母珠の2つを線対称中心として配設された54珠ずつの主珠と、前記第1母珠から数えて7珠目の前記主珠の次に配設された1対の第1四天珠と、前記第1母珠から数えて21珠目の前記主珠の次に配設された1対の第2四天珠と、を線條体でリング状に連結した数珠であって、前記第1母珠と第1四天珠との間の所定数の前記主珠を磁石珠で置換して配設された第1磁石珠群と、前記第1四天珠と前記第2四天珠との間の所定数の前記主珠を前記磁石珠で置換して配設された第2磁石珠群と、前記第1磁石珠群と対向して前記第2母珠側の所定数の前記主珠を前記磁石珠で置換して配設された第3磁石珠群と、前記第2磁石珠群と対向して前記第2母珠側の所定数の前記主珠を前記磁石珠で置換して配設された第4磁石珠群と、を備えた構成を有している。

【0006】この構成により、以下の作用を有する。

a) 第1磁石珠群、第3磁石珠群が第1母珠、第2母珠をそれぞれ挟んで配設されているので、使用時には複数の磁石珠が中指を取り巻くので、手の内部に中指から腕方向に掛けて強い磁力を浸透させることができ、手の内部の血管に磁力を与えることができる。

b) 第2磁石珠群、第4磁石珠群は使用時に掌に当接するので、揉む動作を加えることにより磁石による血行改善効果に加えて、指圧効果を得ることができ、特に朝夕の勤行に毎日使用する日蓮宗等の場合には、著しい健康増進効果を発揮することができる。

【0007】ここで、母珠、主珠、四天珠としては、水晶等の天然石、真珠、サンゴ、ガラス等の珠石、金属、植物の種子、ジャクダン等の香木等種々のものが用いられる。また、その形状としては、珠形、マユ形、長円珠形、正多角形型等、種々のものが使用できる。線條体としては、綿、麻、ココヤシ等の天然繊維製、ナイロン、アラミド、アクリル、ポリエステル等の合成繊維製の糸類や紐類、ピアノ線、ステンレス線等の硬鋼線やそれらを纏ったワイヤ等が使用される。

【0008】磁石珠の大きさは主珠と略同様に形成してもよく、一回り大きめに形成してもよい。大きめに形成した場合は指圧効果を向上させることができる。磁石珠の磁極は、磁石珠の線條体を通す孔に対して垂直に形成するか、孔の方向と同じに形成してもよい。孔に対して磁極を垂直に形成した場合は、連結した場合にN、S極が交互に並び、磁石珠同士が引きつけ合うとともに、隣り合う磁石珠毎に同極が接触しないので磁力の減衰を防止し長期間に渡り強い磁力を維持することができる。孔に平行に磁極を形成した場合は、複数の磁石珠の対極同士を連結することにより線條体方向の磁力線を強くすることができるため、掌で揉む等の動作を加えた際の誘導

電流が大きくなり、強い血行改善効果を得ることができる。磁石珠の表面には凹凸をつけてもよい。指圧効果を高めることができるからである。また、木目模様等を形成すると荘厳な雰囲気を演出できるので好ましい。

【0009】本発明の請求項2に記載の数珠は、請求項1に記載の発明において、前記第1磁石珠群が、前記第1母珠と前記第1四天珠の間との7珠の前記主珠の内3珠以上を前記磁石珠で置換してなる構成を有している。この構成により、請求項1に記載の発明の作用に加え、以下の作用を有する。

a) 必要十分な数の磁石珠が中指を挟み、無駄なく磁力を供与することができるので、中指の先端までの血行を改善できる。

b) 人差し指、薬指にも第1磁石珠群が当接するので、幅広く血行改善効果を得ることができる。

c) 血行不良から起こる霜焼けにも予防・治療ができる。ここで、主珠を置換する磁石珠の数が3珠より少なくなると、十分な磁力を発生しない傾向が見られるので好ましくない。母珠も磁石珠で置換してもよいが、中指の甲の部分の骨に近い部分には血管やツボが少なく、大きな血行改善効果等が得られ難いので好ましくない。四天珠も磁石珠にしてもよいが、四天珠は通常、主珠より小径なため、十分な磁力を付与し難いので好ましくない。

【0010】本発明の請求項3に記載の数珠は、請求項1又は2に記載の発明において、前記第2磁石珠群が、前記第1四天珠と前記第2四天珠との間の14珠の前記主珠の内3珠〜7珠が前記磁石珠で置換され、かつ、前記第2磁石珠群の前記磁石珠同士の間1珠以上の前記主珠を残している構成を有している。この構成により、請求項1、2の作用に加え、以下の作用を有する。

a) 適宜間隔を置いて磁石珠が配設されているので、掌のツボに無駄なく当接させることができる。ここで、主珠を置換する磁石珠の数が3珠より少なくなると、十分な磁力を発生しない傾向が見られるとともに、7珠より多くなると、磁石珠同士の磁力による引力が大きくなってまとめ、取り扱いが困難になる傾向が見られるため、何れも好ましくない。

【0011】本発明の請求項4に記載の数珠は、請求項1乃至3の内いずれか1項に記載の発明において、前記磁石珠が、KS鋼、MK鋼、アルニコ系合金、Cu-Ni-Fe合金、Fe-Cr-Co合金等の合金磁石、フェライト磁石、希土類コバルト磁石、MnAl磁石等の化合物磁石、これらの焼結セラミック体若しくはこれらの粉末を合成樹脂中に分散させたプラスチック磁石等の内いずれか1以上からなる構成を有している。

【0012】この構成により、請求項1乃至3の作用に加え、以下の作用を有する。

a) 適宜材質を選択することにより、磁力線の強度、重量、耐久性等の物性を好ましいものに調節することがで

きる。

b) フェライト磁石、希土類コバルト磁石、 $MnAl$ 磁石等の化合物磁石、これらの焼結セラミック体若しくはこれらの粉末を合成樹脂中に分散させたプラスチック磁石等を使用した場合は、磁石珠を自由な形状に形成することができるとともに、使用者の好みの模様等を付すことができる。

c) 特に表面に凹凸を形成することにより、掌で揉むことによる指圧、マッサージ効果を高めることができる。

【0013】ここで、フェライト磁石は、フェライト粉末とバインダーとを混練し、所定形状にしたあとに焼結して形成される。プラスチック磁石は、磁性粉末をプレポリマーに分散させた後に硬化させることにより形成される。いずれの場合も、所定形状に形成した後に磁化することによりすぐれた磁力を得ることができる。

【0014】本発明の請求項5に記載の数珠は、請求項1乃至4の内いずれか1項に記載の発明において、前記磁石珠の表面が、金、銀、ニッケル、コバルト、クロム、パラジウム等の金属メッキ層、ホウロウ層、塗装層のいずれか1以上を備え、及び／又は抗菌層を備えている構成を有している。この構成により、請求項1乃至4に記載の発明の作用に加え、以下の作用を有する。

a) メッキやホウロウ、各種の塗料等により表面を被覆することにより、摩擦による表面の劣化や汗による錆の発生を防止でき、強度と耐久性を向上させることができる。

b) 抗菌層を備えた場合は、汗等の付着により悪臭が発生することを防止でき、快適に使用することができる。

【0015】

【発明の実施の形態】(実施の形態1) 本発明の実施の形態1における数珠について、以下図面を用いて説明する。図1は実施の形態1における数珠の全体斜視図である。図1において、1は実施の形態1における日蓮宗の数珠、2は大珠である第1母珠、2'は第1母珠2に配設された2本の房部、3は第1母珠2と対向する位置(対称の位置)に配設された大珠である第2母珠、3'は第2母珠3に配設された3本の房部、4は第1母珠2と第2母珠を線対称の中心にして54珠づつ振り分けた合計で108珠の主珠、5は第1母珠2から数えて7珠目の主珠4の次に配設された第1四天珠、6は第1母珠2から数えて21珠目の主珠4の次に配設された第2四天珠、7はフェライト磁石等からなる磁石珠、8は第1母珠2と第1四天珠5との間の所定数の主珠4を磁石珠7で置換した第1磁石珠群、9は第1四天珠5と第2四天珠6との間の所定数の主珠4を磁石珠7で置換した第2磁石珠群、10は数珠1の環の中心を点対称中心とし、第1磁石珠群8と略点対称に対向するように第2母珠3側の主珠4を磁石珠7で置換して配設された第3磁石珠群、11は数珠1をリング状に展開した際のリングの中心点に対し第2磁石珠群9の点対称の位置に第2母

珠3側の主珠4を磁石珠7で置換して配設された第4磁石珠群である。

【0016】以上のように構成された実施の形態1における数珠の使用方法について、以下図面を用いて説明する。図2は、実施の形態1の数珠の使用状態を示す側面図である。図2において、1は実施の形態1の数珠であり、Hは左右の手、Mは中指である。2は第1母珠、3は第2母珠、8は第1磁石珠群、9は第2磁石珠群、10は第3磁石珠群、11は第4磁石珠群であり、これらは図1と同様なので同一の符号を付して説明を省略する。ここで、左右の手の中指Mを、甲側が第1母珠2、第2母珠4にそれぞれ当接するように数珠1の環を掛ける。房部3'、4'は手の甲側に垂らす。次いで、読経等の際に数珠1の環の部分を左右の手H(掌)で挟み揉む。

【0017】以上のように構成された実施の形態1における数珠の動作・作用を、以下図面を用いて説明する。

図3(a)は、掌のツボを示す正面図であり、図3

(b)は、手の甲のツボを示す正面図、図3(c)は数珠を中指にかけた状態を示す要部平面図である。図3(a)において、Hは手、21は冷え症に有効なツボである手心、22は疲れ目に有効なツボの心包区である。図3(b)において、23は便秘に有効なツボの第二二間、24は腰痛に有効なツボの座骨神経点である。図3(c)において、第1母珠2、主珠4、第1磁石群8は図1と同様であるので同一の符号を付して説明を省略する。

【0018】以上のように本実施の形態1の数珠は構成されているので、以下の作用を有する。中指Mに掛けられた第1母珠2から第1磁石珠群8(第3磁石珠群10も同様、図示せず)が中指Mを挟むため、第二二間23、座骨神経点24を直接刺激するとともに磁力線を付与することができる。第1磁石珠群8は人差指F、薬指Rにも当接するため、それぞれの指の末端までの血行が改善され、血行不良を主な原因とする霜焼け等の予防、治療ができる。掌で挟んだ主珠4は、掌側の手心21、心包区22に当接してその凹凸で直接物理的な刺激を与えることができるとともに、第2磁石珠群9、第4磁石珠群11からの磁力により、血行を改善する事ができる。

【0019】

【発明の効果】以上のように、本発明の数珠によれば以下の優れた効果を実現できる。請求項1に記載の発明によれば、

1) 第1磁石珠群、第3磁石珠群が第1母珠、第2母珠をそれぞれ挟んで配設されているので、使用時には複数の磁石珠が中指を取り巻くので、手の内部に中指から腕方向に掛けて強い磁力を浸透させることができ、手の内部の血管に磁力を与えることができるので、血行改善効果に優れる。

2) 第2磁石珠群、第4磁石珠群は使用時に掌に当接す

るので、揉む動作を加えることにより磁石による血行改善効果に加え、高い指圧効果を得ることができるので、特に日蓮宗の信者のように朝夕の勤行に毎日使用することにより優れた健康増進効果を得ることができる。

【0020】請求項2に記載の発明によれば、請求項1の効果に加えて、

1) 必要十分な数の磁石珠が中指を挟み、無駄なく磁力を供与することができるので、中指の先端までの血行を改善できる。

2) 人指し指、薬指にも第1磁石珠群が当接するので、幅広く血行改善効果を得ることができる。

3) 血行不良から起こる霜焼けにも予防・治療ができる。

【0021】請求項3に記載の発明によれば、請求項1又は2の効果に加えて、

1) 適宜間隔を置いて磁石珠が配設されているので、掌のツボに無駄なく当接させることができ、磁力のムダを防止できるので効率性に優れる。

【0022】請求項4に記載の発明によれば、請求項1乃至3の効果に加えて、

a) 適宜材質を選択することにより、磁力線の強度、重量、耐久性等の物性を好ましいものに調節することができる。

b) フェライト磁石、希土類コバルト磁石、MnAl磁石等の化合物磁石、これらの焼結セラミック体若しくはこれらの粉末を合成樹脂中に分散させたプラスチック磁石等を使用した場合は、磁石珠を自由な形状に形成することができるとともに、使用者の好みの模様等を付すことができる。

c) 表面に凹凸を加えることにより、指圧、マッサージ効果を高めることができるので、高い健康増進効果が得られる。

【0023】請求項5に記載の発明によれば、請求項1

乃至4の効果に加えて、

1) メッキやホウロウ、各種の塗料等により表面を被覆することにより、強度と耐久性を向上させることができる。

2) 抗菌層を備えた場合は、汗等の付着により悪臭が発生することを防止でき、快適性を向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施の形態1における数珠の全体斜視図

【図2】実施の形態1の数珠の使用状態を示す側面図

【図3】(a) 掌のツボを示す正面図

(b) 手の甲のツボを示す正面図

(c) 数珠を中指にかけた状態を示す要部平面図

【符号の説明】

1 数珠

2 第1母珠

2' 房部

3 第2母珠、

3' 房部

20 4 主珠

5 第1四天珠

6 第2四天珠

7 磁石珠

8 第1磁石珠群

9 第2磁石珠群

10 第3磁石珠群

11 第4磁石珠群

H 手

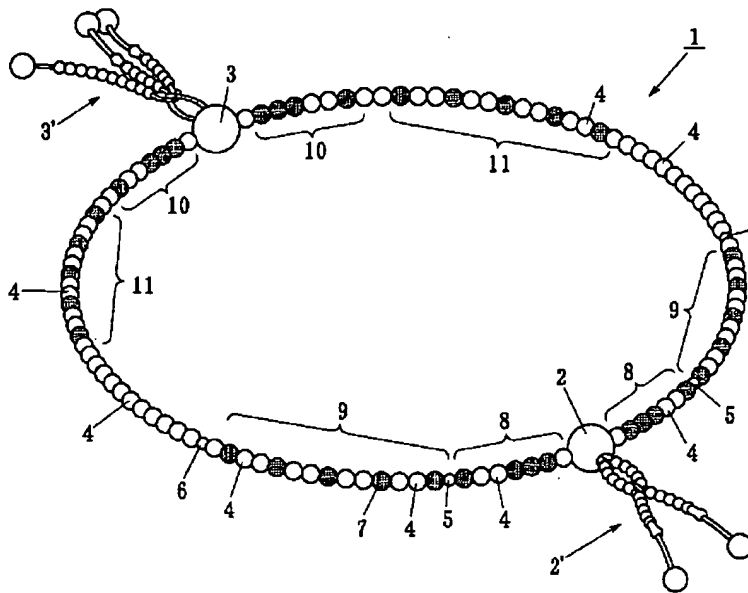
21 手心

30 22 心包区

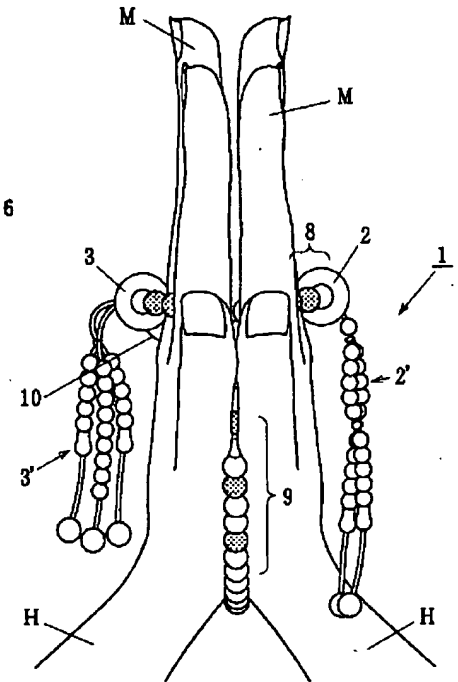
23 第二二間

24 座骨神経点

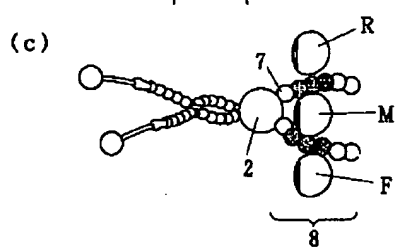
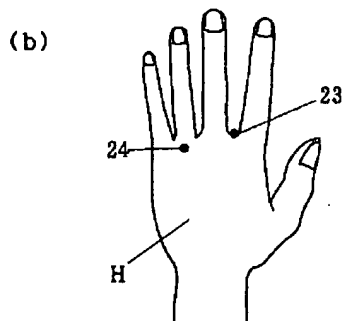
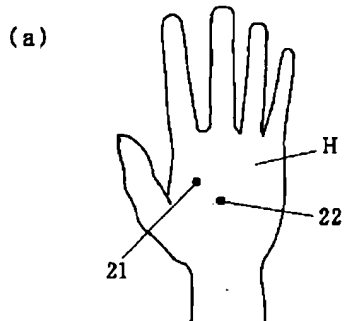
【図1】



【図2】



【図3】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

F I
A 6 1 N 1/42

ターム(参考)

C

Fターム(参考) 3B114 AA03 AA05 AA06 AA11 AA14
 BB12 BD03 BD06 BD15 CC08
 CC26 FA13 JA01
 4C101 BA01 BA08 BB08 BB09 BC28
 BD02 BD14 BD17 BD18 BD22
 BD23 BD24 BD25 BD26 BE02
 EA06 EB12
 4C106 AA01 BB02 BB13 CC36 EE07
 FF03 FF04 FF09 FF20